

まちなかサロンの 説明会&交流会

まちスポとやま

開催日：2022年4月16日(土)10:00～11:30
場 所：まちなか総合ケアセンター・地域連携室
参加者：10団体11名



まちなかサロンの使用登録会員と登録を検討中の方を対象に毎年春に実施しているイベント。説明会では、使用申請の方法や使用の流れ、感染症対策へのご協力などをお伝えした後、参加団体同士の情報交換の場として交流会を開催しました。ほとんどが初めて顔を合わせる方同士でしたが、団体ごとにこれまでのサロンでの活動やこれからやってみたいことなどを紹介してもらいました。参加団体からは「他の方の活動を知ることができ、大変刺激になった。自分もぜひ参加してみたい」という声も。また、新たに使用を検討している参加者は、「今日この場で皆さんの活動を知ることができ、ますます自分も何かやってみたいと思った」と話していました。

2022年度 とやまし元気づくりプロジェクト

まちスポとやま

富山市福祉政策課より受託している「とやまし元気づくりプロジェクト」が今年度も始まります。市民1人ひとりがウェルビーイング(健康で幸福な状態)を目指して活動していく、このプロジェクトでは、2022年「ウェルビーイング研修プログラム」(公募プログラム)の案内も開始しています。これは、自身で企画や運営を行いながらウェルビーイン

グを高めることを意図しています。また、企画運営に係る事務作業や申請書類の作成などわからないことはまちスポとやまがサポートしていきます。2021年度は3団体の活動をサポートし、主催者の高い満足度がありました。今年度もたくさんの応募をお待ちしております。



まちスポの窓



毎朝散歩にきていたタケちゃん。
保育園楽しんでるかな？
板屋



山菜とりに行きたいなー
野首



春になると、桜の食べ物はばりです！
ピリーム

4月のホームページ更新

<http://machispo.org>



- 会報96号
<http://machispo.org/kaihou96/>
- 第6回スキマ研究会
<http://machispo.org/sukima6/>
- 白書アンケートのお願い
<http://machispo.org/questionnaire/>
- フードバンク活動を応援します
<http://machispo.org/foodbankproject/>
- みんなのまちスポ10周年プロジェクト
<http://machispo.org/10-year-anniversary/>
- 2022年4月まちスポ飛騨高山イベント情報
<http://machispo.org/event202204/>
- 2022年5月まちスポ飛騨高山イベント情報
<http://machispo.org/202205event/>



さるぼぼコイン
クレジットでの
賛助会員入会が
可能になりました！

詳しくは
こちらを
ご覧ください！

<http://machispo.org/donation>



活動を応援してくださる方を
募集しています。

- ♡ 個人年会費 1口 ￥3,000
- ♡ 法人年会費 1口 ￥5,000

納入先

郵便振替 00840-9-183216 特定非営利活動法人まちづくりスポット
飛騨信用組合 松泰寺支店(普)0793442 特定非営利活動法人まちづくりスポット
高山信用金庫 駅西支店(普)0166788 特定非営利活動法人まちづくりスポット

2022年5月15日発行(通巻99号)

発行：認定NPO法人 まちづくりスポット 発行者：竹内 ゆみ子 編集：五十嵐 浩子

〒506-0025 岐阜県高山市天満町1-5-8 フレスポ飛騨高山内 TEL 0577-62-8550

FAX 0577-62-8580

✉ info@machispo.org

事務局休館日：毎週火曜(火曜祝日の場合は水曜日)年末年始

2022.05.15 May

会報

まちスポ
Machispo Vol. 99

のくとなってきた～

Since 2012.3.4



まちスポ飛騨高山

飛騨地域の フードバンク活動を 応援します

※「フードバンク」とは、食品のロスを削減するとともに、食の支援を必要とする人々を支える方法のひとつです。



フードバンク飛騨高山設立サポート

フードロスを削減しながら、生活に困っている方々を支援することを目的とした「フードバンク飛騨高山」が2022年3月8日に設立されました。同日、高山市八幡町に食料倉庫兼受渡し場所となるフードパントリーをオープン。県内初の民間が運営するフードバンクです。まちスポでは、運営人材の発掘や仕組みづくりのサポートを行いました。立上げから一ヶ月が経ち、支援の輪が広がっています。

高山市社会福祉協議会が中心となって仕組みを整備し、企業や福祉団体が連携して食料の回収や支援が必要な人への配布を行っています。4月18日(月)には、この活動に関わる福祉団体を集めた意見交換会に参加しました。自分たちに今できること、これから必要なことを一人ひとりが考え、支え合える地域を目指して、フードバンク飛騨高山のこれからの活躍が楽しみです。

まちスポでは

寄付金を受付ける 窓口を設置しました



まだ食べられるのに、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、食べ物に困っている施設や人に届けるフードバンク活動等への寄付金のご協力をお願いします。

「フードバンク」とは、食品のロス削減するとともに、食の支援を必要とする人々を支える方法のひとつです。さまざまな理由で市場に出せなくなった食品を、食の不安を抱える人や、その支援団体に無償で提供する活動です。飛騨地域で活動する団体を対象とします。

いただいた寄付金は、立上げ支援・基盤強化を必要とする団体の倉庫の維持費、梱包材、ガソリン代、管理業務などに活用します。

フードバンク活動へ「スマホで寄付」



- ①さるぼぼコインのアプリを開く
- ②「支払う」ボタンをタッチ
- ③右にあるQRコードにカメラをかざして読み込む
- ④寄付(支払い)金額を入力する
- ⑤内容を確認して支払う(※1)
- ⑥支払い完了画面からコメントが送れます「フードバンク」と送信してください(※2)

寄付金受領証明書が必要な方はまちスポへご連絡ください。

※1 支払い先が「交流スペースまちスポ飛騨高山」であることを確認してください。

※2 フードバンクとコメントがないものはフードバンクを含めたまちスポ全体の活動への寄付として受け取らせていただきます。

さるぼぼコインとは、2017年12月に発行了したスマートフォンアプリを活用した地域通貨。高山市・飛騨市・白川町の3市で利用可能。

寄付のお申込みはこちらから

<http://machispo.org/foodbankproject/>



飛び出せ★元気市民
高山



乳幼児教室はびるん／
ひだ遊育スクールrichffl

いわした あきこ

岩下 彰子さん

子どもに共感し、
楽しい保育・療育
親子共感し、
親に寄添う、

乳幼児教室はびるん／
ひだ遊育スクールrichfflへのお問い合わせ
090-4858-6055 (岩下彰子)

今回紹介する岩下彰子さんは、生後1カ月から小学生までを対象とし、遊びを通した育児支援を行う「乳幼児教室はびるん」、園児から小学生を対象とする、自然に触れ遊びや活動を通して生きる力を育む「ひだ遊育スクールrichffl」を運営しています。これまでの人生一貫して保育に携わってきたお話を伺いました。

「本能」で志した天職「保育士」

大阪生まれ、大阪育ちの岩下さん。幼少期から近所の子供たちを連れて遊ぶほど子どもが好きで、その頃から保育に関わることを志していたそうです。岩下さんはそのことを「本能」と表現していました。そして、ピアノのレッスンや高校生時の車いすの子どもへの福祉活動の参加を通して、地元大阪で保育士として働き始めました。

その後、結婚を機に高山へ移住、育児期間を挟んで保育士としての活動を再開し始めます。その中で身体的、機能的に特徴のある子ども向けである医療と教育の観点を合わせた「療育」の現場でも活動し始めたそうです。そして地域で遊ぶ・地域で学ぼうをコンセプトにした「はびるん」の運営を始めました。

「使命」として活動する はびるん・richffl

「乳幼児教室はびるん」は、会員・非会員合わせて100名前後という規模感。教室では、ベビーマッサージや遊具を使った遊び、握力を鍛えるような細かい作業を取り入れ、年齢や目的に合わせてきめ細やかに発育をサポートします。楽しむこと、チャレンジすることを心がけて、五感や体幹、平衡感覚といったものを「遊びの栄養素」として、人生の土台作りをサポートしています。また、子



どもたちだけでなく、親御さんへも親しみやすい環境を心がけレッスン外の相談も密に取る身近な保育士として活動しています。

一方、「ひだ遊育スクールrichffl」はコロナ禍の中で、密を避けた屋外での活動が注目されたタイミングで始めたそうです。高山市内の公園や森での体験を行う「自然遊び」、子どもが見たい仕事を汲み取って見学や販売体験を行う「企業体験」、防災も兼ねた食べ物を作る・食べるを体験する「食育」

という3本柱で活動を行っています。体験施設・森の自然学校でのイベントでは、木工関係の企業とタッグを組み、モノづくり体験と、飼育されるニワトリの卵を使用したランチを食べるといった内容で子どもたちも大いに楽しんだそうです。

保育・療育の活動と「野望」

療育施設が必要な家庭が増加する中でははびるんや、公園遊具の撤去やコロナでの体験機会の喪失に合わせたrichffl、どの活動も「子どもを守りたい・親を守りたい」という思いを体現しているように感じます。

最後に、岩下さんが「野望」として語っていたのが、はびるんとrichfflとの活動をコラボしたような、小さい子から大きい子まで自然の中で思う存分体を動かし身体と心の根っこを育み生きる力へと繋げる親子や地域の憩いの場を作ること。

子どもへの共感、親への真摯さが感じられた岩下さんがこれからどんな楽しい空間を作っていくのか楽しみです。



ご連絡はこちらまで

▼ まちスポ飛騨高山

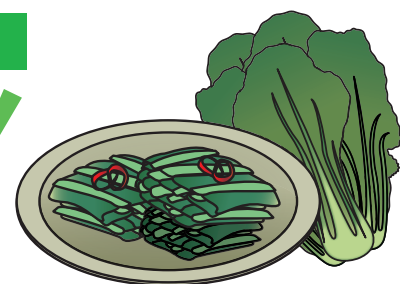
〒506-0025 岐阜県高山市天満町1-5-8 (フレスポ飛騨高山内)
TEL: 0577-62-8550 FAX: 0577-62-8580
E-mail: info@machispo.org HP: http://machispo.org

▼ まちスポとやま

〒930-0083 富山県富山市総曲輪4丁目4-3 (総曲輪レガートスクエア内)
TEL: 076-461-3332 FAX: 076-461-3359
E-mail: toyama@machispo.org HP: http://machispo.org

交流スペースイベント 高山市土産品応援セール！

まちスポ飛騨高山



主催：丹生川土産物組合
開催日：2022年4月17日(日)
来場者数：約300名



新型コロナウイルスの感染拡大で観光需要が激減し、土産物の消費が落ち込む中、高山市の土産物を販売する丹生川土産物組合が「高山市土産品応援セール」を4月17日(日)まちスポ飛騨高山で開催しました。賞味期限の迫ったお菓子、漬物、惣菜などの食品や在庫過多になっ

てしまった商品を10%引きから半額で販売。10時オープンから地元のご家族連れを中心に、終了時間の15時までの間で約300人が来場され買い物を楽しんでいました。商品を購入することで組合の支援、またフードロスにも繋がります。参加された方々からは、「安いのでついついたくさん買いすぎてしまった」「外での開催だったので安心して買い物を楽しめた」などの感想がありました。



第6回

まちスポ飛騨高山

スキマ研究会

不登校、その先を考える

6回目の今回は、「不登校、その先を考える」と題して、飛騨地域の不登校の子どもたちをどのように地域で見守れるか対話をしました。スキマ案内人(ゲスト)として川上祐輔さん(高山市教育委員会 主事)、澤谷美津枝さん(岐阜県地域若者サポートステーション サテライトマネージャー)、益田大輔さん(精神科医／産業医)をお招きし、モデレーターは事業パートナーの古里圭史氏が担

当。今回は過去最多50名に迫る応募がありました。「(子どもの親として)情報をどのように集めればいいのか、困った」「実際に場の運営をしているがどのように声がけしたら良いか…」など様々な視点からの話が飛び交い、話が尽きない様子でした。



～認定NPOを学ぶ～

まちスポ飛騨高山

視察・研修の受入れ

富山県高岡市よりNPO法人Nプロジェクトひと・みち・まちの皆さんが「認定NPO法人の事務について知りたい」と来館され、「認定NPO取得までに必要な手続き」や「実際にどんな管理業務が発生するのか」をお話ししました。認定NPO法人には税制上の優遇措置が受けられるという大きなメリットがあります。それだけではなく、認定基準クリアを目指して取り組むことにより、社内体制が整備されるというメリットもあります。認定

NPO取得へ向けた話し合いが、活動や組織運営の振り返りのきっかけとなれば幸いです。

まちスポではこれまでの活動・組織運営で得た気づきを活かし、視察・研修の受入れを随時行っております。気軽にお問合せください。

